

VOL.58

2021年9月発行

事務局

〒115-8560

東京都北区赤羽台一丁目7番11号

東洋大学ライフデザイン学部

WELLB HUB-2 20901研究室

(吉田研究室)

日本精神障害者リハビリテーション学会

News Letter

INDEX

- 01 新会長挨拶
- 02 役員体制
- 03 第28回愛知大会
- 04 研修セミナーのご案内
- 05 事務局からのお知らせ



新会長挨拶

日本精神障害者リハビリテーション学会
第7代会長 池淵 恵美

今年度より学会長を務めることになりました、帝京平成大学の池淵です。精神科医として、長年精神障害者リハビリテーションに携わってきました。

1981年に本学会は設立されましたが、その当時は医学モデル中心で精神科病院でのリハビリテーションが主であった過去の反省から、新たに生物・心理・社会モデルへと切り替えて、リハビリテーションを本来の「社会への復権」へと発展させるべく、「生活のしづらさ(障害、disability)」の解明や支援方法の開発に力がそそがれました。1990年代にはエビデンスに基づきリハビリテーションプログラムが次々海外から紹介されて支援方法が豊かになるとともに、精神保健福祉制度の整備が進んで、精神障害を持つ人の地域での生活が現実になってきました。さらに2011年の障害者基本法の制定などによって、社会で仕事をするのが以前よりは容易になってきています。こうした流れの中で、社会の一員として自負を持ち、障害を持ちつつ生きていく人たちが、さまざまところで発言するようになっていきます。

このように、精神障害者リハビリテーションはここ40年で大きな展開を遂げています。創世記の専門家(第1世代)たちが第一線を引き、ついでリハビリテーションを大きく発展させた第2世代が順次定年を迎えてきています。そして学会の役員に第3世代の人たちが参入してきてくれるようになりました。バトンタッチのタイミングだと感じています。

精神障害を持つ人たちが、より充実した生活を送れるように、第3世代の活躍を応援していきたいと思っています。そして、まだまだ解明・克服できていない、障害についての研究や支援方法の開発、根強い偏見に対して、ノーマライゼーションを実現する社会を目指していきたいと思います。そのための、市民・障害者を持つ人・家族・専門家が一体となって、共同創造の精神で力を合わせていけたらと思います。一緒に次のよりよい社会を目指しましょう。



<http://www.japr.jp>
Mail japr.jimukyoku@gmail.com

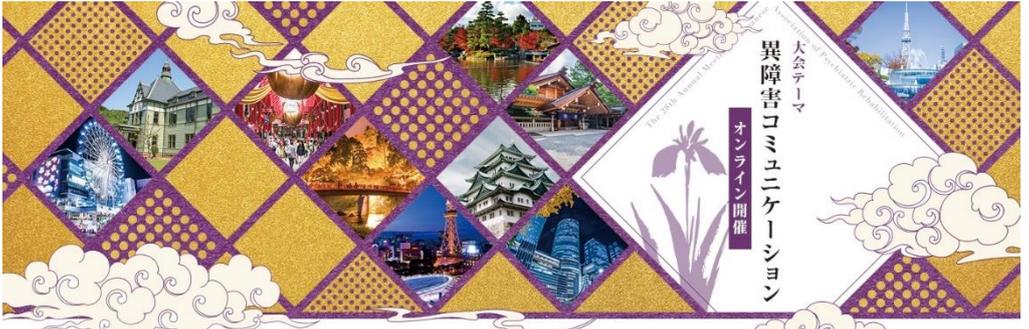
役員体制

2020年12月におこなわれた理事改選の選挙(配布数:983人 投票数:351通、1732票、投票率:35.7%)に基づき、以下の20名が理事に選出されております。
(任期:令和3年4月1日~令和6年3月31日)

理事名簿(20名)※令和3年7月現在

池淵 恵美 学会長/総務・企画	帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授
安西 信雄 副学会長/総務・企画/研究・実践	帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 教授
岩崎 香 副学会長/総務・企画/ベストプラクティス賞	早稲田大学 人間科学学術院 教授
後藤 雅博 副学会長/総務・企画/大会/研究・実践	医療法人崇徳会 こころのクリニック ウィズ 所長
浅見 隆康 研修	群馬大学 健康支援総合センター 昭和事業場産業医
安保 寛明 渉外/研究・実践	山形県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科 教授
池田 望 大会/学会誌	札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科 教授
市来 真彦 大会/ベストプラクティス賞	東京医科大学 学生・職員健康サポートセンター センター長
内野 俊郎 大会/学会誌	久留米大学 医学部 神経精神医学講座 准教授
大石 甲 総務・企画/広報	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター 研究部門 研究員
大川 浩子 研修/ベストプラクティス賞	北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科 教授
木挽 秀夫 大会/研修	中部学院大学 看護・リハビリテーション学部 看護学科 講師
佐藤 さやか 総務・企画	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 臨床援助技術研究室長
佐抜 洋平 広報/研修	医療法人慈和会 大口病院
千葉 理恵 渉外/ベストプラクティス賞	神戸大学大学院 保健学研究科 教授
樽谷 精一郎 大会/研修	新阿武山病院 医長
半澤 節子 学会誌/研究・実践	自治医科大学 看護学部 教授
松田 康裕 研修/研究・実践	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪精神医療センター 地域連携部 部長
山口 創生 学会誌/ベストプラクティス賞	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神保健サービス評価研究室長
吉田 光爾 事務局長/総務・企画	東洋大学大学院ライフデザイン学研究科 教授

日本精神障害者リハビリテーション学会
第28回愛知大会



大会テーマ
異障害者コミュニケーション

オンライン開催

The 28th Annual Meeting of the Japanese Association of Psychiatric Rehabilitation

日時 2021.12.11(土)～12(日)

会場 愛知医科大学 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1-1(オンライン開催・オンデマンド動画配信予定)

大会長 福智 寿彦 医療法人福智会 すずかけクリニック院長



大会長 福智 寿彦

障害をもつ人の気持ちを理解すること。

他人を理解すること。

それは簡単にはできないことです。

しかし、簡単ではないからやらなくてもかまわないということはありません。理解しようと努めること、興味をもち、近づき、声をかけ、手を握り、肩を並べ、考えながら、苦しみながら、時に諦めながら、それでも何らかの形で他者とつながりをもつことが人には必要だと私は考えています。

一方で、障害者を理解した気になっている治療者は偽物だとも思います。障害者は、24時間常にその障害と共に過ごしています。わずかな時間、断片的にしか障害者と接することがない治療者がたどり着ける理解と、障害者自身の理解との間には大きな隔たりがあります。

私はてんかん専門医でもあります。てんかん発作を治療によって止めることができたとしても、知的障害や精神症状、発達障害や身体障害がある場合には、社会参加することがなかなか難しいということを痛感しています。また、精神科の専門家の多くは知的障害や身体障害、発達障害自体を診ることがないため、それらの障害にてんかんを併発した患者さんに対しどう対応して良いかわからず戸惑うことが少なくありません。

ましてや、知的障害があつててんかん発作もコントロールされていない難治例を前にすると、てんかん専門医にやれることはない逃げ出そうとすることさえあります。自分の専門としていない障害についても理解しようと真剣に動く姿勢を治療者が持ち合わせていなければ、「リハビリテーション」という言葉は虚しい綺麗事でしかありません。

<http://www.japr.jp>

Mail japr.jimukyoku@gmail.com

また、障害者同士の間でも無理解に起因する様々な問題が起こりえます。統合失調症などの精神障害をもつ人、てんかん患者、知的障害を伴う人、身体障害を伴う人が精神科デイケアで一堂に会すると、同じ障害をもつ人だけで集まる場ではみられないような独特のトラブルが発生するのです。デイケアに限らず、地域社会でも同様のことが起きるものと思われます。

身体・知的・精神の三障害が同等に障害者雇用算定基準に採用されたのは記憶に新しいですが、異なる障害をもつ人同士がどのように相手を理解しようとするのか、理解しあえなかったとしてもどのように繋がりながら社会で生きていけば良いのかということが、今まさに突きつけられていると言えるでしょう。これらのことから見えてくるのは、三つの障害や健常者がわざわざ区別されることで成り立っている旧来の治療制度の無意味さと虚しさです。

私は、障害のある人もない人も共に暮らす社会の実現を目指して診療にあたっています。今回の愛知大会では、異なる障害をもつ人同士、障害者と健常者との間で生じるコミュニケーションのあり方、そしてそこから見えてくるこれからの精神医療の可能性についても、大いに議論できる場になればと考えております。

2020年12月吉日

日本精神障害者リハビリテーション学会第28回愛知大会

大会長 福智 寿彦

(医療法人福智会 すすかけクリニック院長)

会議名称	日本精神障害者リハビリテーション学会第28回愛知大会
会期	2021年12月11日(土)から12日(日)
テーマ	「異障害コミュニケーション」
会場	愛知医科大学(〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1-1) (オンラインのみでの開催となります・オンデマンド動画配信予定)
参加者数	約1000人程度
大会長	福智 寿彦(医療法人福智会 すすかけクリニック院長)
副大会長	兼本 浩祐(愛知医科大学精神神経科 教授) 多喜田 恵子(愛知医科大学 名誉教授/岐阜保健大学看護学部 精神看護学 教授)
大会HP	https://www.japr28.com/
同時開催	日本心理教育・家族教室ネットワーク研究集会(http://jnpf.net)

大会長講演:

異障害コミュニケーションから気付いたリカバリーのサポート

時間: 講演 45分(質疑応答も含む)

演者: 福智寿彦 医療法人福智会 すすかけクリニック 院長

<http://www.japr.jp>

Mail japr.jimukyoku@gmail.com

大会特別講演:**リハビリテーションの視点からみた発達障害の支援**

時間: 講演 60 分(質疑応答も含む)

演者: 本田 秀夫 先生(信州大学医学部子どものこころの発達医学教室・附属病院子どものこころ診療部)

副大会長基調講演:**病理から見た精神医学について(仮)**

時間: 講演 45 分(質疑応答も含む)

演者: 兼本 浩祐 先生(愛知医科大学 精神科学講座 教授)

特別基調講演:**病理から見た精神医学について(仮)**

時間: 講演 45 分(質疑応答も含む)

演者: 祖父江 元 先生(愛知医科大学理事)

特別講演:**精神科における高齢者てんかん(仮)**

時間: 講演 60 分(質疑応答も含む)

演者: 吉野 相英 先生(防衛医科大学校病院精神科 診療部長)

教育講演:**リエゾン精神医療、高齢者について(仮)**

時間: 講演 60 分(質疑応答も含む)

演者: 山田 了士 先生(岡山大学大学院 精神神経病態学教室 教授)

教育講演:**言語聴覚士の視点から見たリハビリテーション(仮)**

時間: 講演 60 分(質疑応答も含む)

予定演者: 廣實 真弓 先生(帝京平成大学健康メディカル学部 言語聴覚学科 教授)

大会長企画シンポジウム**①映画上映「友達やめた」**

映画『友達やめた』を通して考える異障害コミュニケーション(仮)

時間: 講演 120 分(上映時間も含む)

演者: 今村 彩子 監督

②当事者シンポジウム

「当事者が主役でなきゃリカバリーは進まない!」

時間: 45 分

演者: すずかけクリニックデイケアメンバー

<http://www.japr.jp>Mail japr.jimukyoku@gmail.com

参加費

学会員	7,000 円
非会員	8,000 円
当事者・家族・学生	1,000 円

開催方法の変更のお知らせ

皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本会は、現地会場およびオンラインシステムを併用したハイブリッド開催を予定して準備を進めて参りましたが、昨今の新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、やむを得ず完全オンライン開催へと開催形態を変更する事と致しました。

現在予定しているプログラムは、全て Zoom システムを用いた「オンライン発表」と致します。一般演題は事前録画にて発表を行い、その他のプログラムは現在検討中ですので詳細が分かり次第ご連絡をさせていただきます。

関係各位におかれましては、急な変更となり大変ご迷惑をおかけ致しますが、順次ご案内して参りますのでホームページをご確認いただけますようお願い申し上げます。

このような状況ではございますが、皆様にとりまして有意義な学会となりますよう、事務局一同、鋭意準備を進めて参りますので、何卒、ご理解・ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

第28回愛知大会
リハビリテーション学会
日本精神障害者
オンライン開催

The 28th Annual Meeting of Japanese Association of Psychiatric Rehabilitation

異障害コミュニケーション

2021.12.11(土)~12(日)

参加費 (会員) 事前申込: 7,000円 / 当日: 8,000円 (非会員) 事前申込: 8,000円 / 当日: 9,000円
(当事者・家族・学生) 事前申込: 当日: 1,000円

開催場所 日本心理教育・家族教室ネットワーク研究学会 (http://jnpf.net)

会場 愛知医科大学 〒480-1195 愛知県長久手市岩作新又1-1 (オンライン開催・オンデマンド動画配信予定)

大会長 福智 寿彦 医療法人福智会 すずかけクリニック 院長 **大会副長** 兼本 浩祐 愛知医科大学 精神科学講座 教授
少野田 恵子 昭和医科歯科大学 看護学 教授

大会事務局 052-741-8300 〒464-0850 名古屋市中村区今池五丁目19-12 すずかけクリニック(くらら)

学生ボランティア募集中! <https://form.run/@seiriha2021>

学会当日にお手伝いして下さる学生さんを募集しています。詳細は応募フォームへ!

- 応募資格: 専門学校・大学・大学院に在籍中の学生
- 当日の昼食、謝礼金あり / ボランティア証明書発行
- 10/31締め切り(予定数に達し次第募集を終了します)

詳細はWEBへ

<http://www.japr.jp>

Mail japr.jimukyoku@gmail.com

研修セミナーのご案内

学会主催研修セミナーのご案内を致します。参加費や受付方法などの詳細は第28回愛知大会「研修・セミナーのご案内」<https://www.japr28.com/seminar/>をご覧ください。

日本精神障害者リハビリテーション学会は精神障害者リハビリテーションの普及啓発を目的に活動しています。もしこの活動が全国津々浦々に行き渡ったとしたら、きっと私たち一人ひとりにとって暮らしやすい社会になっていることでしょう。このたび学会長になられた池淵恵美先生は会長挨拶で、「まだまだ解明・克服できていない、障害についての研究や支援方法の開発、根強い偏見に対して、ノーマライゼーションを実現する社会を目指していきたいと思います。そのための、市民・障害を持つ人・家族・専門家が一体となって、共同創造の精神で力を合わせていけたらと思います。一緒に次のよりよい社会を目指しましょう。」(学会ホームページから引用)と語りかけています。

どのような生活状況下にあっても、私たち一人ひとりが担う役割を自覚し、そして果たし、暮らしやすい社会の実現に向け、一歩ずつ歩いていきましょう。

コロナ禍のため去年は、日本精神障害者リハビリテーション学会第28回愛知大会の開催が延期されましたが、本年は2021年12月11日、12日の予定で行われます。例年大会時に開催されてきました研修セミナーですが、今回は対面によらない新方式—Web方式で行うことになりました。新しい方式で運営に不慣れなため、今回はセミナーの数を少なくし、3つご用意いたします。さらに特別企画としてパトリシアディーガン先生の講演も準備しています。大会1ヶ月前から動画配信を予定しており、複数の受講も可能です。

<申し込み>愛知大会 HP (<https://www.japr28.com/partaker/>)まで

大会1ヶ月前から配信を予定しております。

特別企画 パトリシア・ディーガン先生 講演

リカバリーは過程であり、生き方であり、構えであり、日々の挑戦の仕方です。平坦な一本調子の直線的なみちではありません。…願いは、地域の中で暮らし、働き、愛し、そこで自分が重要な貢献をすることなのです。(Deegan.P.E1988)

パトリシア・ディーガンさんは障害者権利運動の活動家です。10代で統合失調症と診断されその後、自らのリカバリーの旅を続けてきました。また世界中にリカバリーの希望のメッセージを伝えてきました。そして、いよいよ日本で…!

<http://www.japr.jp>

Mail japr.jimukyoku@gmail.com

講師紹介

パトリア・E・ディーガン博士はパット・ディーガン&アソシエイツの創始者です。30年以上にわたり、行動健康リカバリー分野における思想的リーダーであり、これまでの価値観を打ち砕くような革新者です。

パトリア・ディーガンさんは、リカバリーのみちを歩んでいる人による、リカバリーのみちを歩んでいる人のための会社を設立しました。会社の使命は個人の声と選択の権利を臨床ケアチームの中心に据えることで、人間の尊厳を守ることです。この目的のためにパトリア・ディーガンさんは「パット・ディーガンのリカバリーアプローチ」を開発しました。このアプローチには、受賞歴のあるコモングラウンドソフトウェア、オンラインのリカバリーライブラリー、ピアと支援者のためのコモングラウンドアカデミー、および人を悩ませる声を聞くシミュレーションが含まれます。

2009年からはコンサルタントとして、初期の精神病を経験した若年層を対象とした組織的な専門ケアチームのための「OnTrackNY」モデルの開発と発展に貢献しています。

パトリア・ディーガンさんは障害者権利運動の活動家であり、10代で統合失調症と診断された後、自らのリカバリーの旅を続けてきました。また、多くの大学など学術的な役割に就き、多くの著書もあります。そして世界中の聴衆にリカバリーへの希望のメッセージを伝えてきました。デューク大学で臨床心理学の博士号を取得しています。

1 精神障害にも対応した地域包括支援事業の構築に向けて

一般社団法人ソラティオ 岡部正文

2017(平成29)年度から各地で「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に向けた取り組みがなされていますが、皆さんの地域ではどのような風景が広がっているのでしょうか。

私は東京都荒川区(人口約22万人)で活動しています。その取り組みは決して胸を張れるものではありませんが、荒川区に合った風景を描きたいという思いで地道に活動を進めています。

私の所属する法人(ソラティオ)のミッションが相談支援専門員とピアスタッフの協働支援モデルの普及啓発に重きを置いていることもあり、今回は精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のために必要なピアスタッフの活躍の場づくりとその効果についてご紹介させて頂きたいと思います。

真に精神障害当事者が明るく前を向いて暮らしていくためには、これまで良かれと思って取り組んできた支援者目線を見直し、当事者目線で様々な取り組みを進めていくこと

<http://www.japr.jp>

Mail japr.jimukyoku@gmail.com

が重要だと思っています。社会を変えるためには、まず自分の会社(所属)からが私のキッカフレースです。

ピアスタッフが相談支援事業所に雇用され、一緒に汗を流して地域のために働くことは、ともに働く相談支援専門員の質向上に寄与し、ピアスタッフのリカバリーも促進される手応えがあります。そのようなプロセスを通じて力をつけたピアスタッフが自分の経験や仲間の経験を臆せず発信していくことで、少しずつ地域が動いてきた様子をお伝えできるといいと思っています。

2 研究法入門

研究・実践委員会 松田康裕

本学会理事会で、学会員の皆さんの臨床実践の中での気づきや問題意識を育て研究へ発展させる支援ができないか、さらに、実践報告レベルの発表を「研究」レベルに高める支援についても話し合われました。そこで研究・実践委員会が「研究法入門」のセミナーを、今年度より3回シリーズで開催することになりました。15名限定で3回にわたり受講できる方が対象です。(第2回目は第1回目の1ヶ月後、第3回目は第2回目の6か月後)。主な内容は以下の通りです。

第1回目(オンデマンド研修):

【実践から研究の「芽」を見つけ「研究」に育てるコツ】

講師:松田康裕

①臨床疑問を定義する、②文献を調べる、③仲間と相談する、④調査のデザインを考える、⑤研究としてまとめる

【実践から研究へー私の指導経験を踏まえた事例の紹介】

講師:安保寛明

第2回目(オンライン研修):

第1回目の研修を受けて、参加者が事前に臨床疑問を、PICO/PECOの形に整理し、リサーチ・クエスチョンを作成したうえで、当日は講師と議論したり、助言を受けたりする。

講師:松田康裕、安保寛明、安西信雄

第3回目(オンライン研修):

学会発表や研究実践に向けたフォローアップ支援のために、当日は講師と議論したり、助言を受けたりする。

講師:松田康裕、安保寛明、安西信雄

3 てんかんの啓発活動の中での医療従事者の役割とは

座長 福智寿彦

演者 前田様 (日本てんかん協会副理事)

当院スタッフ (医療法人福智会)

「自分はてんかんです。」と声を出すと、様々な偏見や差別があることを目の当たりにし、社会と関わりを持つことをやめてしまう患者がいる。てんかんの啓発活動の目的は、そのような差別、偏見をなくすことに重きを置いているように見えるが、実は違う。仲間にあうことを目的として、社会に出る一歩として、また自分は自分で良いのだと知るためのものとして、当事者はこの活動に参加をする。

一方で、医療スタッフはどうだろう。初めは、仕事の一貫として参加しているスタッフも多いのが現実だが、寄付集め、会場の準備など回を重ねるごとに仕事と割り切れない経験をする。そしててんかんへの差別が社会であることを目の当たりにする。そこで、当事者の気持ちを医療スタッフは知ることになる。その結果、当事者も医療スタッフも一緒に一つのイベントを作り上げる。準備を一生懸命行うとき、そこには、患者、治療者の垣根はないことを感じる。当院では、パープルデーというてんかんの啓発活動を行っている。そして、一緒に苦勞して作り上げた経験は、そのあとの当事者の社会参加に生かされていると実感している。

当日は、日本で大きく活動されている日本てんかん協会(なみの会)、全国で広まり始めたパープルデーについてそれぞれの歩みや活動を紹介し、我々医療スタッフの目線から啓発活動の必要性について考えていただきたい。

参加費

	会員		非会員	
	大会に参加	参加しない	大会に参加	参加しない
精神障害にも対応した地域 包括支援事業の構築に向けて	1000円	2000円	2000円	3000円
研究法入門	2000円	2000円	3000円	3000円
てんかんの啓発活動の中での 医療従事者の役割とは	1000円	2000円	2000円	3000円
パトリア・ディーガン先生 の講演	無料	3000円	無料	4000円

どうぞ奮ってご参加ください。

(研修委員会委員一同)

<http://www.japr.jp>

Mail japr.jimukyoku@gmail.com

事務局からのお知らせ

会員の皆様

コロナ禍にもかかわらず愛知大会へのたくさんの参加・演題登録ありがとうございます。今年度の大会は完全オンライン化ということで、各種のシンポジウムや演題発表、研修・総会・野中賞の記念公演などもオンラインにてお届けいたします。皆様のお越しをお待ち申し上げております。

新広報委員のご挨拶

今年度より広報委員を務めることになりました佐抜です。委員会では現在ホームページのリニューアルに向けて検討を重ねております。また今後の広報の在り方についても様々な意見を伺いながら検討していき、学会周知や皆様への有益な情報提供につながればと思っております。ぜひ機会がありましたら皆様のご意見もお聞かせください。私は約10年デイケアを経験し現在は相談支援事業所で勤務しております。私生活では3歳と1歳の子どもがおり毎日あわただしい日々を過ごしております。どうぞよろしくお願い致します。(佐抜 洋平)

同じく今年度より広報委員を務めております大石です。広報委員会ではホームページ運営やニュースレター発行のほか、会員・非会員を問わず多くの皆様に当学会やその活動を知っていただくための新たな広報戦略を検討していきたいと思っております。仕事では障害のある方の雇用について、ここ数年は就労状況を長期追跡調査する研究を行っています。プライベートでは急遽引越しが決まり準備に大わらわの毎日を送っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。(大石 甲)



<http://www.japr.jp>
Mail japr.jimukyoku@gmail.com